

「江差追分」との出会いと魅力

2017年9月、知人に誘われ民謡では歴史が一番古い「江差追分全国大会」を聴きに、道南の町を訪れた。

民謡、まして江差追分をまともに聴いた事もなく「のど自慢」番組で民謡を歌う人が鐘3つをもらう唄としか理解していなかった私は「決選大会だから唄は上手い人ばかりなのだろう」と思いながらも、それ程興味もなく会場の席に着いた。

少年の部、子供とは思えない節回しに堂々とした歌いっぷり。「将来の美空ひばりがここにいる」。70歳以上の熟年の部、高齢とは思えない伸びやかな張りのある声に洪さが加わり心に響く。「これが伝統を受け継いできた声か」。一般の部、唄のサビで大拍手が起こる。「これが潮で洗われた唄声か」いつの間にか150名の江差追分を聴き10時間が過ぎていた。

「もっと聴きたい」この感情はいったい何なのだろうかと自問した。

ステージ看板に書かれた「魂の唄、心沸き立つ」に納得した。日本人にはどこか江差追分の旋律がDNAとして組み込まれているのではないだろうか。江差追分を知らない多くの人に聴いてもらいたいと思い、江差を後にした。

その私の思いがこの度実現する事となりました。新劇場 hitaru に鳴り響く尺八100本の連管の迫力は私達を江差の海へ誘い、栄冠に輝いた歴代優勝者の唄に魂が揺さぶられる事でしょう。特別ゲストに江差追分出身の杜このみさんを迎え、楽しいコンサート形式でお贈りします。

札幌では27年振りとなる江差追分単独公演。是非、江差追分を聴いてみてください。同じ感情が沸き立つ事でしょう。(HBCプロデューサー)

江差追分とは

信州小諸地方の馬子唄が越後港で船唄に変わり北前船の船乗りが江差港に運ぶ。繁栄する港の花街、浜小屋でうたわれ北前船交易の上方文化と融合し1700年代に芸文化が暮らしに根付く。

江差追分の魂

北国の厳しい自然と闘う暮らしの生き様を背景に江差の風土で磨かれ唄い継がれる。

「鴉の鳴く音に…」七節七声の人生哀歓と躍動感の曲調が民族の魂に響く。生きる力ー癒しの心



踊しぶ分追しさる道海北

かもめ島前浜の追分踊り (明治期)

出演者

【江差追分全国大会歴代優勝者】

- 東 美羽音 (少年第16回大会)
- 石田 桃子 (少年第18回大会)
- 柳田 小春 (少年第20回大会)
- 野呂 帆乃佳 (少年第21回大会)
- 澤口 一雄 (第18回大会)
- 木村 正二 (第23回大会)
- 菊地 勲 (第25回大会)
- 木村 香澄 (第29回大会)
- 佐々木 真理子 (第37回大会)
- 長江 亜津子 (第40回大会)
- 寺島 絵里佳 (第41回大会)
- 寺島 絵美 (第44回大会)
- 日和 義貴 (第47回大会)
- 杉本 武志 (第50回大会)
- 佐竹 春敏 (第54回大会)
- 村川 真奈美 (第55回大会)

【江差三下り】

山本 康子

【アイヌ古式舞踊と江差追分】

押野里架 / 押野朱美 /
アイヌ民族文化財団職員

【伴奏者】

◎尺八

伊藤逸栄 / 内村匡成 / 加川力 /
久保田隆洲 / 熊野正宏 / 田村高臣 /
成田秀宝 / 林成道 / 房田勝芳 /
山田正明 / 山本滋

◎三味線

浅沼和子 / 内村悦子 / 奥泉勇算 /
小野美香 / 小野不貴 /
久保田喜和子 / 二代目佐々木孝 /
房田文江 / 道高勉 / 渡辺祐紀和 /
渡部章英

◎そい掛け

大野小百合 / 小池良水 / 佐竹真奈 /
杉山由夫 / 鈴木紘鳳 / 棚橋健蔵 /
坪田昭信 / 寺島真里絵 / 橋本孝志 /
本間久代 / 湊谷喜津子

◎踊り

○江差追分踊り

石田久枝 / 高橋ひろ子 /
新井田純子 / 安澤美鈴 /
札幌江差追分踊り部会

○江差三下り

坂上隆子 / 竹田美恵子

◆出演者は変更となる場合もあります◆

「江差追分体験教室」を同時開催!

～江差追分を習ってみませんか?～

コンサート当日、会場内で【昼の部】終了後に江差追分体験教室を開催します。講師は江差追分会の師匠が担当します。

【参加受付】

場内の体験教室受付コーナーにて当日11時30分より受付いたします。定員は20名です。(先着順)